

叩かないでイヤな気持ちを言葉で伝える



なぜ子どもは、ケンカをするのでしょうか？

子どもは自分の思い通りにいかないと、欲求不満や怒りを感じて、ケンカ・攻撃的になりやすいです。適切な問題解決の仕方を知らない、あるいは言いたいことを上手く言えないために人を叩いてしまうことがあります。また、子どもは、まわりの人を見て学びます。もしも、家族の言い争いやケンカを見ていると問題が起きた時に同じことをする可能性が高いです。きょうだい間は、嫉妬や競争心からケンカになることもあります。親の注目を得る、相手や周りの反応を知りたくて、人を「ぶつ」、「ける」、「髪を引っ張る」、「悪口を言う」といった行動をする子どももいます。



子どもがたまにケンカや言い争いをするのは、よくあることです。しかし、人と意見が違う時の調整力や問題解決力を身につける機会がないと、ケンカで人を傷つける危険性もあります。ケンカや攻撃的な態度は様々な形で現れます。「口汚い言葉」、「独り占め」、「言い争い」、「破壊的な行動」、など、いろいろあります。

親が気づいた時に、早めに手助けをする機会をもつことで子どもはケンカや攻撃性に対して、適切な行動と問題解決へと修正がしやすくなります。

子育て技術

具体的にほめる

(子育て手帳を参考にしましょう)

身につけてほしい行動ができた時は、具体的にほめる。

子どもに、「叩かないで言葉でイヤな気持ちを伝える」ことを身につけさせたい時

【具体的な場面で考えます】

例) 下の子が勝手に上の子の文房具を使った時に、無言で取り返して叩く

【どのような行動を身につけてほしいかをルールとして考えます】

- ①下の子が勝手に使っている時は「僕の鉛筆を返して」と伝えて返してもらう。
- ②言葉で伝えても無理な時は、母のところに助けを求める。

【身につけてほしい行動ができた時は、具体的にほめる】

- ① ができた時は「『鉛筆を返して』と言葉で言えたね」
- ② ができた時は「『返して』と言葉で言えたね、ママと一緒に言いに行こうね」



【ルールが守れなかった時には〇〇をやめて、〇〇をして】と端的に伝える。できたら具体的にほめる

子どもの近くにいき「とし君、ゆきちゃんを叩くのをやめて『鉛筆を返して』と言葉で言って」と教えます。

子どもが言葉で言えたら、ほめます。

※家庭の中で起こる、きょうだいケンカなどは、さまざまな社会性を身につけるチャンスです。例えば、人のものを使いたい時に「かして」と言う人にゆずる、話し合いて妥協点を探すなど、子どもの問題解決の力も高まる機会になります。

子育て技術

別の活動に誘導する

(子育て手帳を参考にしましょう)

困った行動を起こしそうな予兆が分かる場合は別の活動に誘導して、実際に問題行動が起こることを回避します。そうすることで、親は怒ることが減りストレスが減るでしょう。

例) 子どもが連日、運動会の練習で疲れている。今日は、特に眠そう、機嫌が悪いので、このままだったら、きょうだいケンカが始まるような気がする。どうやって子どもの気をそらそう??

対処法の例)

- ・風呂でなく、シャワーで気分転換。
- ・子どもが好きな遊びを一緒にする。
- ・夜ご飯を子どもが好きなメニューにする。
- ・早めに布団に誘う。
- ・スキンシップをたくさんする。

※「子育て手帳」は、市が開催する「おはなし会」に参加いただいた時にも配布しています。



市の「前向き子育て応援事業」
の情報はコチラ

【お問い合わせ】

前向き子育て応援事務局(つどいの広場内) ☎080-6439-1851(担当 水城)

子ども未来課 子育て支援係 ☎28-7568(担当 石橋)

科学研究費助成事業(責任者 福岡県立大学 江上千代美)

無断複写・複製を禁ず